

春秋会

ニュースレター

2024.9



今月の予定

・9月7日(土)14:30～
16:30

梅之宿酒造見学&梅酒・
梅シロップ作り

・9月20日(金)12:00～
13:00

幹事会

・9月20日(金)18:00～
春秋の日「過労死問題」
松丸先生 (sumile
OSAKA)

・9月25日(水)18:00～
春秋会9月総会

・9月27日(金)19:00～
若手会ビアガーデン

事務所経営研修

松浦 奨 (74期)

7月16日、広瀬先生による若手会向け研修企画「独立は怖くない。真の自由を得る方法」が開催されました！タイトルから既に面白さが溢れ出ていますが、期待に反せず、リアルなぶっちゃけトークが次々と繰り広げられ、あっという間に時間が過ぎてしまう、大変興味深い研修となりました。

私自身、伝聞で「独立して苦労した」という話はよく聞いていたので、独立は自分のお客さんが就いてからでないと不可能、相当自信が無いと無理、と思いつ込んでいた節がありましたが、自身が出せる売上と固定費とをきちんと分析して計画的に進めれば独立ができないわけではないのだな、と独立に対する認識を改めることができました。私自身は独立するという考えにはまだ至っていませんが、本研修をお聞きになった方においても、同様の感想を抱いた方が多く居られると思います。

改めて、広瀬先生、大変有意義な研修をいただき、ありがとうございました！！



ひと月一島、国内航路全制覇への旅(15)

～沖縄県：北大東島、南大東島～

広瀬元太郎 (60期)

6月30日、今日の天気も晴。今日の重要な仕事は、南大東島行の大東フェリーの切符を買うことである。前回の記事でも書いた通り、南北大東島間のフェリーは1～2週間に1回しかない。6月30日は、予定通りであれば、北15:00発、南16:00着のフェリーが運航される日である。一応、スケジュールは狙っていたのであるが、大東フェリーの定時運行率は低いので、だめもと

- ・河野雄介(60 期、委員長)
- ・小野順子(57 期、担当副幹事長)
- ・西原 和彦(55 期)
- ・堀川 智子(57 期)
- ・溝上絢子(57 期)
- ・浦 寛幸 (59 期)
- ・松尾洋輔(59 期)
- ・広瀬 元太郎(60 期)
- ・柳 勝久(61 期)
- ・山田 寛子(65 期)
- ・金星姫(66 期)
- ・木場 晶子(67 期)
- ・田村 瞳 (67 期)
- ・板崎 遼(67 期)
- ・吉留 慧 (68 期)
- ・高一成 (69 期)
- ・根本 俊太郎(70 期)
- ・足立 敦史(71 期)
- ・村本 健司 (71 期)
- ・河野 哲平(71 期)
- ・才木 晴幹(72 期)
- ・中岡 さつき(72 期)
- ・中西 教子(72 期)
- ・久井 大輝(73 期)
- ・佐々木 崇人(74 期)
- ・神澤 鈴子(74 期)
- ・今野敬文(76 期)

のチャレンジである。なので、今日の 15:30 分発の南大東行の飛行機のチケットも重ねて取ってある。とはいいいながらも、船に乗りたい。今日の船が運航されるかは、「今日の 10 時までに西港の港湾事務所に行けばわかる」と事前の電話で聞いていた。合格発表のようである。昨晚 17 時に那覇を出港した船が、今朝の 8 時に南大東に着き、その後 10 時に北大東に着く。少なくとも南大東に到達していれば、予定通りに運航されるということであろう。梅雨明け以降、快晴が続いており、運航は間違いないと思うが、天候以外のアクシデントも考えられるので、気は抜けない。



昨日暇だったので、「西港の港湾事務所」は下見済である。事前の電話では、チケットは 10 時までに買ってください、とのことであった。15 時に出航する船のチケットの発券締め切り時間が 10 時というのは謎である。西港の港湾事務所は、まさに事務所であり、チケットを売っているとの表示も全くない。合っているのか？建築現場の現場事務所を訪ねると、扉をノックして入る。先客はいない。「おはようございます」と事務所に入ると、中年の女性が対応してくれる。なんか面白い冗談を言ったようだったが、わかりにくかった。

人間関係円滑化のためとりあえず笑っておいた。南大東までのチケット代は 870 円である。「今日は予定通りですか？」と聞くと「大丈夫」とのこと。「兄さんは、船初めて？」と聞く。初めてと答えると、「運がいいねー。結構乗れない人いるのよ。この前も、3 回目のトライでも乗れなくて、飛行機で行くわ。また来年来ますと言ってた子がいたよ。はははは」とのことであった。司法試験のような話になっている。南北大東島は切り立った崖で囲まれている関係で、大型船が接岸できる港がない。したがって、大型船である大東フェリーは、岸壁から 10 メートル離れた地点で停泊し、クレーンで荷役する。接岸できないので、乗降用ブリッジもかけられない。よって、人間も動物が入るような檻に入れられ、クレーンで荷揚げされる。この方法での上陸は、ここが日本で唯一であり、YouTube にも体験動画が多数上がっている。これを目指して、やってくる受験生のような人が多いのだ。なお、司法試験と違って、少なくとも月に 2, 3 回はチャンスがあるので、時間と金を惜しまなければ、機会は多い。

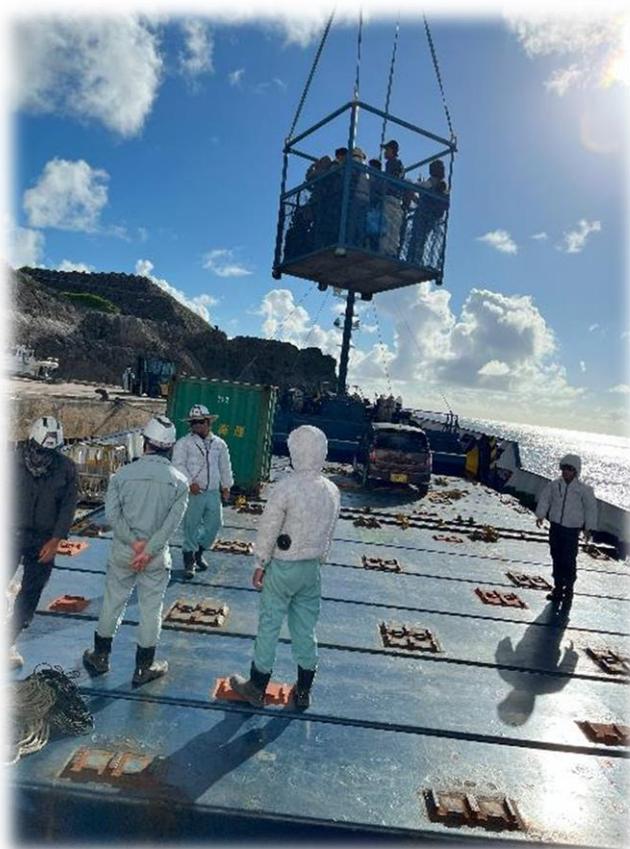
- ・小林悠人(76期)
- ・永田駿(76期)
- ・山口謙都(76期)



すでに、見るべきところ一
通り見た筆者は、南大東島か
らやってくる船を見ようと、
北西端の岬（特に名前なし）
に行った。10時少し前、だい
とう丸がやってきた。深く蒼
い海と島の緑しかないところ
に、白い船がやってくる。よ
くわからないが、南太平洋の
遠い遠い島に来たような気分
になり、気分が高揚し、歌を
歌ったりした。トラベラー
ズ・ハイである。

船を追いかけて北港に着く
と、船の到着自体が観光イベ
ントになっているようで、昨

日から、観光スポットやはまゆう荘で何度も見た顔ぶれが、着岸作業を見てい
る。昨日、筆者が乗ってきた航空便以降に、この島に入る手段はないのである
から、暇を持て余した観光客全員がここにきているのは理解できる。クレーン
での上陸という、日本唯一のイベントが始まるからだ。気が付くと、「うふあ
がりレンタカー」のおっさんから携帯に着信がはいており、何か重大な事態
が発生したのかと思ったが、「船が着くので上陸面白いよ。北港にいてみ
て」とのことであった。サービスが良い。



大東丸の着岸は、今まで
見た普通の船の着岸とは少
し異なっていた。通常、船
を陸地に固定するロープ
（「もやい」という）は、
船員が陸地側にいる係員に
向かって（人力で）投げる
が、大東丸は岸から少し離
れた位置に停泊するため、
投てき機のようなもので、
もやいの先端部を射出す
る。港の係の人が「危ない
から離れてください」と注
意喚起する。「うふあがり
レンタカー」のおっさん
が、すぐそこにいて、「船
がついたから見に行ったら
と思って電話したさー」と

声をかけてきた。本当に、重要なイベントらしい。

いよいよ最大のイベント、クレーンでの乗客上陸が始まる。5時間後には、自分がクレーンで釣りあげられるのであるから、わざわざ他人が吊るされるのを見る必要もないのであるが、別にやることがないので見ている。下船客は30人くらいで、クレーンは3往復する。クレーンで揚げられた人々は、「うふあがりレンタカー」や「はまゆう荘」のマイクロバスに乗って、とっとと港を去る。荷揚げ作業見物の観光客もいなくなり、北港は静かになる。

あと島で見てないものは何だろう。そういえば、空港の近くに神社のようなものがあつたようだ（秋葉神社）。これを10分くらいで見終わり、島の人が植えた「枇榔林」観光を5分。すでに3回くらい行った「西港公園」に行き海を眺める。昼になり、おなかが減ったので、昨日の夕食、今日の朝食を経て3回目のはまゆう荘のレストランでカレーを食べる。見慣れた面々が食事をとっている。自己紹介もしてないし名前も知らないが、「自転車で回っている色白の眼鏡」、「沖縄海の人」、「航空オタク」、「バイク男二人旅」などと筆者の頭の中ではニックネームが完成している。筆者は、彼らからどのようなニックネームを付けられているのだろうか。

船で飲む飲み物を買おうと唯一の店である農協に向かうと、店内は大混雑していた。昨日までは閑散としていたのであるが。船が着き、様々な商品が入荷したので、島の住民が大挙してきてるといふことか。ネットのワンクリックで買えるようになったとはいえ、物理的な商品の配達は、1週間に一度の船に依存しているのである。

滞在時間26時間。北大東島を去る時刻が近づいてきた。レンタカーは、「港にキーを付けたまま置いてください」ということだったので、港に置いておく。乗船客は港の隅に集められている。船から、空の檻がクレーンで吊り上がり、待機場所の前に下ろされる。ほぼ全員、スマホの動画を作動させている。北大東島観光のハイライトだ。第1グループの10人強が檻に入れられ、浮上する。滞空時間は40秒くらいか。筆者は第2グループで釣り上げられた。思いのほか高く上がる。高所に弱い人には結構厳しいかもしれない。人間の搬入が終わった後、ヤギが一匹搬入される。人間は10人まとめられるが、ヤギは一匹で檻を占有している。このあと、このヤギがどうなるのかは知らない。



「だいとう丸」は小さな船であった。あとで調べてみると、さんふらわー（大阪、別府航路）の30分の1であった。定員は55名。船の真ん中に小さな乗客用のスペースがあり、定員分の2段ベッドが用意されている。椅子席が若干あるが、レストランや売店はなく、自動販売機が設置されている。南大東島までは1時間の航海なので、2段ベッドは使われてない。この大きさで、沖縄本島との間の完全な外洋を300キロ以上も航行するのか。荒天時は、相当揺れることが想像される。この

2段ベッドで、15時間耐えるのはかなりつらい。なお、理由は不明であるが、この船は「飲酒禁止」である。船酔いと酒酔いの相乗効果で、乗客の状態が悪化するのを防止しているのだろうか。

島の人に見送られ、船は出航する。島めぐりを重ねて来たが、船が陸地を離れていくこの時間は、ほんとうにいい。そして、今まで見たことのない海の青



さ。沖縄本島のエメラルドグリーンとも全然違う吸い込まれそうな濃い青である。1時間の航海は穏やかで、ほとんど揺れない。ゆっくりと北大東島が去っていくとともに、ほとんど同じ地形の南大東島が近づいてくる。瀬戸内海と違い、船からほかの船がまったく見えない。世界の半分が青空で、残りの半分が海、その隙間にのっぺりとした南北大東島が挟まっている。

南大東島の港には、北と同じく見物人が集まっていた。北と同じプロセスで、檻に入って上陸する。北大東島同様見物人が詰めかけていた。南大東島に

は、おそらく4軒の宿泊施設があり、そのうちネットで予約できるのが2軒で(2024年5月現在)、2軒のうち綺麗な「コテージKIRAKU」を予約した。本日船の着く北港は、KIRAKUから遠いので、宿の人に迎えに来てもらうことにしている。これは、北大東島でもいえることであるが、その日の風向きにより、着岸する港が変わる。KIRAKUに送迎をお願いするとき「どの港

に着きます？」と聞かれたが、そんなのわからないので「聞いてません」とこたえと、「わかりました。役場に聞いて行きます」とのことであった。今日は、日曜日であるが、役場も大変である。



KIRAKU から迎えに来てくれたのは中年の女性で、おそらく KIRAKU のオーナーと思われる。10 分くらい車に乗せられ、南大東島の中心部に着く。住宅が密集し、スーパーや病院もある。北大東に一日いた身からすると、大都会にみえる。KIRAKU は、敷地の中に 7 件くらいのコテージが配置されている。コテージの中庭については、ロコミでは「南国風の植物が生い茂っている雰囲気がある…」と書かれてあったが、筆者からすると、荒れた庭という印象だ。人工的に手を加えられてい

るよりは、南国らしくていい。コテージは若干古いが、板張りでエアコンの効いた快適な部屋であった。当然のように、ヤモリが壁にへばりつき、大きな声で鳴いている。事件の事も、自分の職業のことも忘れてしまいそうな、遠い孤島の夜である。

続く

執行部だより

親睦担当副幹事長 板崎 遼 (67 期)

今年度の親睦委員会を担当しております板崎遼です。人違いによる就任無効の訴えが排斥されて半年となりましたが（何のこっちゃわからない方はぜひ会報をご覧ください。）、何とかやっていけています。何とか、といいつつ、広報委員会にも籍をおく身でありながら、執行部だよりを締め切り当日に必死に書いている点、どうも綱渡りの感が否めません。

さて、親睦委員会では毎年、春秋会会員の親睦を深めるべく、さまざまなイベントを企画、運営しています。先日は、毎年恒例のビアパーティーを今年は「春秋サマーフェス」として開催したところ、多数の参加をいただきました。クイズ企画は、会場のあちらこちらから出題自体や、出題者の解説に対する異議が飛び交うなど、「正しいと思うことに遠慮はしない」という春秋会らしい(?)進行が見られました。

このように春秋サマーフェスは盛況に終わりましたが、親睦行事に対してよく聞かれるのが、最若手の方の他は決まった顔ばかり、特に中堅・子育て世代の参加が少ない、難しいという声です。私自身2人の子育て中で、親睦担当副幹事長を拝命するこれまでの間、ほとんど行事に参加していなかったなあと自身を振り返った次第です。

就任挨拶の際には、「子育て世代も参加できる親睦企画がしたい!」と申し上げたところでしたが、9月7日に開催の研修委員会との合同企画梅乃宿酒造見学には、子育て世代の会員がお子様と一緒に参加される姿がありました(10月のNLで企画報告があるものと思います。)。また、現在企画中のアウトドア企画についても、お子様、ご家族連れて参加できるようなアクティビティを検討しているところです。

私自身、今まで参加していなかったのに親睦委員担当副幹事長!?!というところからのスタートでした。今まで参加が難しかった皆さまも、もちろん今までもフル参加だ!という皆さまも、奮って各種行事にご参加いただけますと幸いです。

よろしく申し上げます。

あとがき

広報委員会では、会員の皆様から原稿を大募集します。ぜひ、ご連絡ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

などありましたら、以下のアドレスにご連絡ください。

広報委員長 河野雄介 y.kono@swlaw.jp